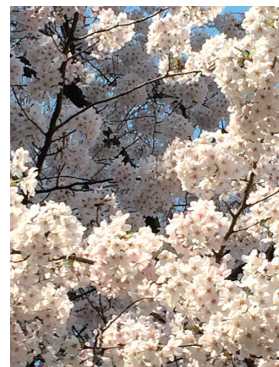


図書館だより

目次

新入生の皆さんに	——白杵 陽	1
著作紹介 篠原聡子, 日本女子大学篠原聡子研究室編著		
『シェアハウス図鑑』	——篠原 聡子	2
「出会い」としての図書館	——白戸 麻実	3
図書館という場所	——森谷 奈央	3
春恒例☆図書館利用案内	——中澤 恵子	4
図書館今昔物語 その2	——浜口 都紀	6
新図書館の完成予想図について	——	6
図書館前の花樹	——水嶋 寿恵	7
学外からの本学契約データベース・電子ジャーナルの利用について	——矢吹 さより	8
泉ラーニング・スペース利用案内	——中澤 恵子	8



目白キャンパスの桜

新入生の皆さんに

白杵 陽

日本女子大学に入学された新入生の皆さんはいろいろな抱負をもって新たに大学生生活を始められたことと思います。大学は高校までとは違って、自分で新たな課題を探して自ら進んで学習を進めていくのでなければ、長続きしません。一人ひとりが生涯をかけてやれるような自分のやりたいテーマを見つけるのも大学という場でこそ可能だと思います。

ところで、図書館はギリシア語の起源としては「ビブリオテカ bibliotheca」で、ヨーロッパ大陸の諸言語はこの単語を使うことが多いのですが、英語はラテン語の「リブラーリア libraria」から「ライブラリー-library」が派生するわけです。突然ですが、ライブラリーという英単語からの連想で「血の中傷」という言葉をご存知でしょうか。ご存じない方はネットで検索するとすぐに見つけることができます。入学したばかりの皆さんに、このようないささか不穏当な言葉を紹介するのは少々躊躇していますが、この「中傷(ライベル libel)」と「図書館(ライブラリー-library)」に当たる英単語の語源が同じだということを少し書いてみたかったからです。

この「中傷」に関連するのは「血の中傷(blood libel)」あるいは「儀式殺人(ritual murder)」と呼ばれる事件であり、ヨーロッパ中世以来頻発しているユダヤ人に対するいわれなき攻撃のことです。英和大辞典を引くと、libel という単語の語源については次のように説明されています。中期英語では「小冊子、公式文書、(特に)原告の陳述」のことで、ラテン語では「本(libera)」の指小形(libellus)だとあり、関係語として矢印がlibraryに付されています。「ライブラリー」とこんな物騒な言葉が関係しているとは信じられない、と思われる方もいらっしゃるでしょう。ただ、ユダヤ人の歴史を少しばかり勉強すると中世キリスト教社会では深刻な問題があったことがわかります。

私自身が「血の中傷」あるいは「儀式殺人」について具体的に知ったのはエルサレム・ヘブライ大学に留学していた時です。ウルバンという大学付設のヘブライ語学校のコースに出席していたときのテキストに出てきたのです。キリスト教には聖餐式という儀式がありますが、辞書的には、イエスが最後の晩餐で、パンと赤ワインをとり、「これは私のからだである、私の血である」と言ったことに基づいて、イエスの血と肉とを象徴する赤ワインとパンとを信徒に分かつ儀式です。実は、イエスが使徒たちにキリスト(メシアつまり救世主)と呼ばれるようになる前は、イエスはユダヤ教のラビ(指導者)の一人であったわけで、この聖餐式もユダヤ教の過ぎ越しの祭りに由来します。

過ぎ越しの祭りとはユダヤ教徒がファラオの圧政を逃れて出エジプトを祝う儀式ですが、この儀式でも赤ワインとパンが使用されるのです。「血の中傷」とは、ユダヤ人がこの過ぎ越しの祭りで赤ワインとパンの代わりにキリスト教徒の少年の血と肉を使っているというデマが飛び、ユダヤ教徒が攻撃されて殺害されたりした事件をいいます。十字軍の時期以降、頻発するようになります。

「中傷(ライベル)」の元々の意味は「文書による誹謗」ということになりましたが、図書館の「ライブラリー」と語源が一緒だということを考えると、言葉の不思議さを感じてしまいます。いずれにせよ、古代以来の図書館の歴史を考えると、いろいろなことを連想することができます。皆さんも図書館でいろいろと調べて知の旅を試みてください。

(図書館長・史学科教授)

著作紹介 篠原聡子, 日本女子大学篠原聡子研究室編著 『シェアハウス図鑑』

篠原 聡子

2012年に7人が暮らすシェアハウスとして計画していた

「SHAREyaraicho」が竣工した。当時、シェアハウスはすでに少なからずあったが、ほとんどが戸建て住宅や企業の寮からのリノベーションで、新築のシェアハウスはかなり珍しかった。それは、予想以上に評判になり、海外の雑誌も含めて、色々なメディアに取り上げられた。この建物の話を主とした「Architecture for Shared Living」と題したシュツットガルト大学でのささやかなレクチュアは、70人教室に100人くらいが詰めかけ、私にとっては最初で最後までうけたのだった。

「SHAREyaraicho」が建築として面白いとしても（もちろん建築家としてそこを頑張っているわけだが）、正直、もしこれがシェアハウスでなければ、そこまで注目されることはなかったとも思える。

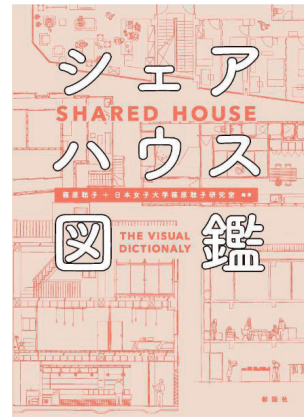
日本において、新しい住まい方を新しい建築を通して示したい、という思いで設計したが、西欧の大都市では、シェアして暮らすなんて、若者にとっては普通であろうから、シュツットガルト大学の学生の反応は意外だった。そのレクチュアが切掛けとなって、シュツットガルト大学から毎年、私の設計事務所にインターンの学生がくるようになった。そのインターンの学生のひとりに「このシェアハウス（SHAREyaraicho）のなにが面白い？」と聞いてみた。すると、「シェアして暮らすのは当たり前だけれど、シェアするために作られた家はみたことがなかった。」と、その学生は答えた。

日本のシェアハウスにあたるものは、欧米では、一般的に shared house, あるいは shared living というが、それらは、住まい方や状況をいっているのであって、建築のスタイルではない、ということがわかってきた。普通の戸建ての家やアパートメントをシェアして暮らしてきた彼らの方がより敏感に、そうした住まい方が形を持つことの意味を感じたのかもしれない。住まい方が建築をつくり、建築が住まい方をつくる、そういう相互関係が人の居場所となる家をつくるのであり、シェアハウスが仮住まい以上のものとなるとすれば、新しい建築の形が必要なかもしれない。

「SHAREyaraicho」は、私の建築家としての仕事であるが、その他に、このシェアハウス図鑑に取り上げた事例は、私の研究室の歴代の学生たちがここ約10年間に調査したものを下地としている。そこに、この本のために追加で調査したものをいくつか加えた。新しい建築の形と言いながら、主要な11事例のうち、2事例を除いてその他は他用途からのリノベーションのシェアハウスである。近年は、大型のシェアハウスもあるけれど、ここに収録されているのは小ぶりのものばかりである。あつという間に人気が出て、うまく市場に回収されてしまった感のある大型のものは、そつなくよくできているけれど、事例の選定にあたっては、なんだかピンとこなかった。シェアならではの面倒臭さが外部サービスを入れることによって、予め取り除かれていて、それはそれでよいけれど、サービスアパートメントの廉価版という感もあり、来るべき新しい住まいというわくわく感がないのである。ここに収録した事例は、小さかったり、古かったりするが、新しい建築になろうとする萌芽的な空間があり、住まい方があった。建築が面白いものを選んだら、住人やオーナーや管理人もユニークで、結局、空間を中心として、ひと・もの・ことを記述した図鑑になった。

前述したように、学生の論文のための調査がもととなり、主要なイラストはすべて、研究室の大学院生が描いていることを付け加えたい。ここにおいて、学生と調査に歩くというようなことがなければ、このような本の制作にかかわることもなかったと思う。

(住居学科教授)



「出会い」としての図書館

白戸 麻実

皆さんはどういったときに図書館に足を運びますか。大学生になると授業の課題の本を借りるときや、レポートの作成に必要な本を借りるときなどのために図書館を利用する、ということが多くなると思います。今回、私は皆さんにそういった何か目的があって図書館を利用するだけではなく、特に理由がないときに図書館に足を運んでみることをお勧めしたいと思います。

日本女子大学の図書館には多くの本が揃っており、その蔵書には皆さんが興味を持っているものから興味が無いものまで、様々なジャンルの本があります。しかし課題の本を借りるだけ、レポートの作成のために本を借りるだけ、では蔵書のほんの一部にしか触れることができません。そのため皆さんには必要な本を借りるついでで良いので、図書館を一度見て回ってほしいのです。その際に、いつもは足を運ばないようなジャンルの棚にも立ち寄って欲しいと思います。そして気になる本が見つかったのであれば、手に取って、裏表紙や見返しの部分に書いてあること、また最初の数ページを読んでみてください。そこで興味が魅かれなければ本を棚に戻してよいですし、もし興味が魅かれたのであれば、もう少しその先を読んでみたり、席に座ってじっくり読み進めたり、時間がないのであればその本を借りたり、本の題名をメモに取っておくなどをしてみてください。そのようにして見つけて読んでみた本は、新たなものに興味を持つきっかけとなることや思わぬ時に役に立つことがあります。

今日ではただ知りたいことを調べるだけであれば、インターネットなどを利用する方が楽で簡単だと思います。しかし図書館には調べたい内容を検索するインターネットには難しい、未知なものとの遭遇や新たなものの考え方、見方を得ることができる場所です。皆さんも今までの自分とは異なる世界に出会うことができる図書館に、足を運んでみてはいかがでしょうか。

(史学科・2年次学生)

図書館という場所

森谷 奈央

皆さんにとって図書館とはどのような場所でしょうか。本を借りる場所、本を読む場所、落ち着ける場所、好きな場所、少し苦手な場所、空いた時間に来る場所、ここに挙げてない場所であると思っている人もいるかもしれません。私にとって図書館とは集中したいときに来る場所です。

図書館で私が集中でき、気に入っている場所は一階にある1人用のデスクです。この周辺にはあまり人が来ないため、友人に会うことなく集中して読書や課題を進めることができます。

また、図書館には専門書だけでなく雑誌や新聞が置いてあるので課題の合間に雑誌や新聞を読み、気分転換をすることもあります。私は現在一人暮らしをしているので料理のレシピ本を読んで本に載っているレシピを試してみようと考えたり、自分では新聞を契約していないので図書館にある新聞を読んだりしています。新聞や雑誌の種類は多く、二階には雑誌の最新号やその日の新聞が置かれていますが、一階にはバックナンバーが置かれているのでまとめて読むことができます。

私は普段、図書館を頻繁に利用しているわけではないので皆さんに頻繁に利用しましょうとは言えません。しかし、是非活用はしてください。より素晴らしい本と出会える機会が多い場所は図書館しかありません。そして、数ある図書館の中でも大学生活を送る中で最も身近な図書館は大学の図書館だと思います。きっと、レポートや課題、学生生活を送る上で役に立つでしょう。また、私のように生活の知恵を得られるかも知れません。日本女子大学図書館は皆さんの学びの幅を今まで以上に大きく広げてくれる場所になると思います。

(社会福祉学科・3年次学生)

春恒例☆図書館利用案内

—あなたの充実ライフの鍵、図書館でみつけよう—

こんにちは！これから春恒例☆図書館利用案内をします。学生の皆さんには「充実した学生生活を送る」＝「図書館を上手に使うスキルをもつ」といっても過言ではありません。学業も課外活動も充実した4年間を目指し、さくっと図書館利用のポイントをつかみましょう。

1. 利用カードの交付をうける

本学の学生・教職員・卒業生など利用資格をお持ちの方は目白と西生田の両キャンパスにある日本女子大学図書館を利用できます。初めて当館を利用する方は、学生証、教職員証を持参の上、2階（エントランス階）カウンターで登録手続きをし、利用カードの交付を受けてください。卒業生は身分証不要です。**利用カード（目白・西生田共通）**は登録した本人のみ有効であり、図書館への入館、図書の貸出などに必要です。



2. 資料を探す

この図書館は**開架式**です。図書・雑誌を書架で直接手に取り見ることができます。資料は、和書、洋書、雑誌、年鑑・白書類、参考図書、大型本など、その性質や形態によってまとめて配置されています。また、同じ主題（テーマ）が集まるよう、和書は日本十進分類法（NDC）、洋書はデュエィ十進分類法（DDC）により分類され、書架に並んでいます。なお、和装本、視聴覚資料など、一部の資料についてはスタッフが出納します。利用を希望する場合はカウンターまで申し出てください。

書名または著者名、あるいはキーワードがわかっている時は、**OPAC（Online Public Access Catalog：オンライン目録）**で本学の蔵書を検索し、請求記号と配置場所を調べることができます。OPACは図書館ホームページから利用してください。インターネット環境があれば、どこからでもアクセスできます。

☆ 図書館システムは2018年4月3日より新しくなります！ ☆

システム更改に伴い、図書館ホームページのURLも次のように変更になります。お気に入り登録等している方は注意してください。

<日本女子大学図書館ホームページ Web サイト>

(旧) <http://www.lib.jwu.ac.jp/> → (新) <http://lib.jwu.ac.jp/>

図書館ホームページのフルバージョンです。パソコンからの利用を想定して提供していますが、詳細情報が確認できますので、スマートフォン等モバイルからでも積極的にアクセスしてください。

<日本女子大学図書館ホームページ携帯サイト>

(旧) <http://www.lib.jwu.ac.jp/mobileopac/>
→ (新) <https://lib.jwu.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>

テキストベースなのでフィーチャーフォン利用者もアクセス可能です。蔵書検索、My JWULIS、開館カレンダー、緊急のお知らせを閲覧及び利用できます。なお、開館カレンダーは開閉館情報のみですので、開館時間等詳細情報を知りたい場合はWebサイトの開館カレンダー（詳細）から確認してください。

<日本女子大学図書館ホームページモバイルサイト>

スマートフォン対応の新サービスです！iPhoneならApp Store、AndroidならGoogle Playストアから「Ufinity」と検索してアプリを入手できます。「Ufinity」の中から「日本女子大学図書館」を選択設定してください。蔵書検索、My JWULIS、新着案内、貸出ランキングが利用できるほか、Webサイトや携帯サイトへのリンクも提供しています。



図書館ホームページから **My JWULIS (Japan Women's University Library Information System)** も活用しましょう。My JWULIS は当館が提供するオンライン・サービスです。OPAC の検索結果から予約（貸出中図書予約、他キャンパス図書館所蔵図書取り寄せ）ができるほか、My JWULIS のメニューを選んでログインし、利用状況の確認、貸出更新、予約の変更、検索式・検索結果の保存をインターネット上で行うことができます。

資料の探し方がわからない、必要な資料が見つからないという時は**参考係**に相談しましょう。参考係は皆さんが必要とする文献や情報を探し出すサポートをしています。

3. 図書を借りる

借りたい図書を見つけたら、利用カードと一緒にカウンターへ持参してください。貸出は必ず本人が手続きしてください。なお、**図書の返却が遅れている間は貸出できません。図書を延滞すると、遅れた日数分だけ貸出停止になりますので、ご注意ください。**

4. 施設・設備を利用する

図書館には、新聞や情報誌があるブラウジングコーナー、DVD・ビデオ・CD などを楽しめるコーナー、図書館資料を使ってグループで学修する**グループ研究室**など様々な学修スペースがあります。

利用者パソコンには、常時起動状態ですぐに学術情報を検索できる **OPAC 端末**（ディスプレイ左下に青ラベル貼付）と学術情報に加えて Office2013または2016（Word, Excel, PowerPoint）やホームドライブを使用できる **JASMINE 端末**（JASMINE アカウントでログイン：ディスプレイ左下にピンクラベル貼付）があります。JASMINE 端末には館内に設置されているデスクトップ型以外に**貸出ノートパソコン**（館内限定）もありますので活用してください。インターネット環境としては**貸出ノートパソコン用情報コンセント**や **JASMINE-Wireless ポイント**が配備されています。

5. 図書館のイベントに参加する

2018年度に関しては、図書館ホームページや館内掲示、JASMINE-Navi にてお知らせします。

(1) 図書館開催の講習会

図書館利用のエッセンスを効率的にまとめた、資料の探し方やデータベースに関する講習会を開催しています。ふるって参加してください。



(2) 「学生が読みたい本」募集

図書館では、年2回（前期・後期各1回）「学生が読みたい本」を募集し、研究目的に限らず、大学図書館にあった方が良いと思う本、読みたい本のリクエストを受け付けています。

2017年度は前期5月9日（火）～17日（水）、後期10月2日（月）～10日（火）に募集を行い、前期・後期合わせて目録152枚、西生田302枚の応募がありました。購入された図書は背に「学生が読みたい本」のシールを貼り、エントランス階にある専用の書架に別置されています。

なお、研究のために必要な図書の購入に関しては、随時、参考係にて受け付けています。

6. 他大学図書館を協定利用する

日本女子大学図書館は、**学習院大学図書館（2009年11月1日施行）**、**お茶の水女子大学附属図書館（2011年11月1日施行）**、**跡見学園女子大学図書館（2013年11月1日施行）**と**図書館相互利用協定を締結しています**。f-Campus（5大学単位互換制度）も併せ、下表にて紹介します。各図書館の規則・マナーを守って利用しましょう。

	図書館相互利用協定			f-Campus (5大学単位互換制度)
協定校	学習院大学図書館	お茶の水女子大学 附属図書館	跡見学園女子大学 図書館	学習院大学、学習院女子大学 立教大学、早稲田大学
対象者	本学発行の学生証・教職員証所持者			f-Campus 受講証を 所持する学生
サービス 内容	館内閲覧、複写 図書の貸出	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写

*詳細は、図書館ホームページ「協定校利用案内」(<http://lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>) 参照。

(館員・閲覧係 中澤恵子)

図書館今昔物語 その2 目録カードコーナー

浜口 都紀

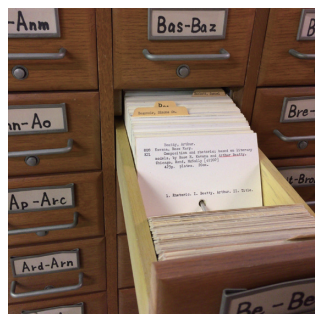


写真は、昭和40年代初めの2階カウンター前、目録カードコーナーである。現在はOPACとJASMINE端末、複写機が並んでいるあたりだ。この当時閲覧席だった写真の奥には、その後参考書架が増設されているため、見晴しも現在とはずいぶん変わって見える。

「その1」でも触れたとおり、本学図書館にコンピュータシステムが導入されたのが1989年、それ以前は、本を探す際には書名、著者名がアルファベット順に

編成されたカード目録で請求記号を調べ、該当の書架へ探しに行く（貸し出されているかどうかはカウンターに問い合わせなければわからない）という流れだった。我々司書も、購入しようとしている図書が既に所蔵されているかどうかはカード目録で調べる必要があり、目録カードコーナーではいつも一心にカードをめくる人の姿が見られたものである。

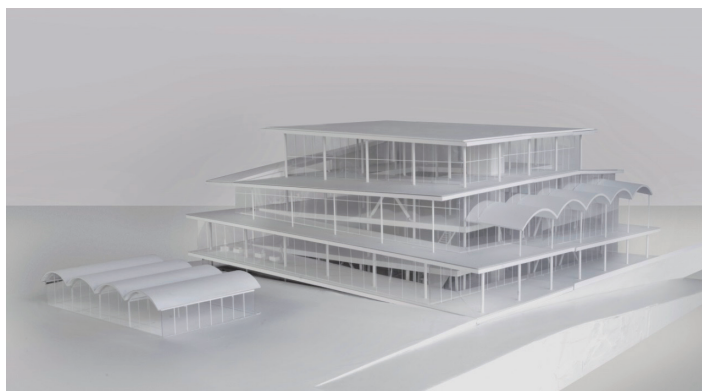
西生田キャンパスの発足に向け、図書館のトータルシステムが導入されてからも、データの遡及入力が進むまでの間しばらくはカード目録とOPACの併用が続いた。当時、遡及入力作業は永遠に終わらない膨大な作業に思えたが、今やほぼ全ての資料はOPACで検索できる。更に、この4月からはOPACが更新され、より便利な検索が実現する予定となっている。



(図書館課長)

新図書館の完成予想図について

前号 (No.160) で新図書館の起工式の様子をお伝えしたが、2019年4月の開館に向け、新図書館の建設が急ピッチで進められている。下の図は、新図書館の完成予想図で、目白通りと豊坂の交点あたりから見下ろすような視点で描かれている。左手の建物は隣接して建つ学生滞在スペースで、共通する波型の屋根が特徴的である。



図は妹島和世建築設計事務所提供

図書館前の花樹

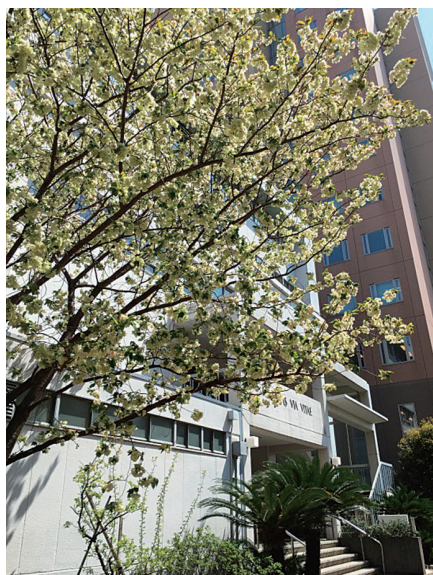
水嶋 寿恵

目白キャンパスでは新図書館の建設が始まり、現在の図書館はおよそ1年後にその役割を終えようとしている。1964年6月23日の開館から今日に至るまで、図書館の周りには様々な樹木が贈られ、あるいは植樹されて四季を彩り、共にキャンパスを巣立つ学生を見守ってきた。今では大樹となった木も多い。これらの木々のうち、新図書館完成の折に移植が叶い、新たな図書館と共に歴史を刻むことになる木、または、この場所に残ることが許され、新たに建つ教室・研究棟に寄り添いながら生きる木は、どれくらいあるのだろうか。現在のこの風景をせめて記憶に留めておきたい。

図書館正面に向かって一番右手には金木犀がある。根本付近で二股に分かれるが、一本の大きな木で、10月初旬にはオレンジ色の小さい花をたくさんつけ、辺り一面を良い香りで包む。その横には、図書館の掲示版を支えるような立寒椿が、冬空の下で可憐な花を咲かせる。



図書館の掲示版と立寒椿



鬱金と蘇鉄

そして、玄関の両側には蘇鉄。図書館正面に刻まれる「VERITAS VIA VITAE」と朱い回転扉、この蘇鉄を、図書館の外観として思い浮かべる方も多岐にわたる。

さて、左手に進むと躑躅、豊後梅、鬱金、素心蠟梅、白木蓮、躑躅、椿と続く。豊後梅は台風で折れてしまった紅梅に代えて、2011年の冬に目白会より植樹いただいた。素心蠟梅もこの折の植樹であるが、このところ元気がないのが心配である。先代の紅梅は早咲きで、1月の後期試験の頃に咲き出し、皆を励ました。豊後梅はゆっくりと桜の頃に咲く。

鬱金は新制49回生の記念樹(1995年)、白木蓮は新制16回生の卒業記念樹(1965年)。

鬱金は4月半ば、咲き初めは薄黄緑の花が徐々に色づき、満開になると薄紅色に咲き誇る。白木蓮は寒の内から蕾が少しずつ膨らんで、3月、桜の少し前に乳白色の花をばくっと開く。

現在の図書館の開館を祝って、当時、英文学科の水田米先生が、ご自身が手塩にかけて栽培された50本の花樹を図書館に贈ってくださった。すでに樹齢40年を超える躑躅や椿が多くあったという。50余年を経て、今も数本の躑躅と椿が目白の図書館と共にある。



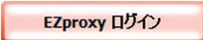
満開の白木蓮

(館員・逐次刊行物係)

学外からの本学契約データベース・電子ジャーナルの利用について

長年にわたり、学生・教員の方々から、自宅など学外から大学で契約しているデータベースや電子ジャーナル等を利用したいというご要望がありました。このたび、泉会のご支援により、これを実現するEZproxyというサービスを2017年10月28日より導入いたしました。日本女子大学に所属する学部学生、大学院生、専任教職員でJASMINEメールアドレスをお持ちの方が利用できます。

ログイン方法は、図書館ホームページ左側の<情報検索>の「学外アクセス」から、または<情報検索>の「オンライン・データベース」のページの上下にある「学外アクセス (EZproxy)」ボタンからと、2通りあります。

いずれも説明のページの  をクリックし、JASMINEアカウントでログインしてください。利用できるデータベース・電子ジャーナル等が一覧表示されます。データベース名をクリックしてご利用ください。「オンライン・データベース」のページからも利用可能なデータベースは確認できます。

アクセス数に制限のあるデータベースもありますので、利用後は必ずログアウトしてください。なお、大量のダウンロード・プリントアウトは禁止されています。

契約上学外から利用できないデータベース、EZproxyに対応していないデータベース等もありますが、今後利用できるデータベースは増やしていきます。スマートフォンでも使えます。ぜひご利用ください。
(館員・参考係 矢吹さより)

泉ラーニング・スペース利用案内

当スペースは、本学学生保護者の会である泉会からご支援いただき、2015年11月25日に図書館目白4階、2016年6月21日に西生田図書館2階に誕生しました。可動式机・イス、各種機器類を備え、自由にグループ学修などができ、インターネット環境も整っています。各種機器の貸出・利用方法については2階カウンターで案内します。さらに、学科・専攻推薦を受けた本学学生（学部上級生、大学院生）のラーニング・サポーターに学修相談ができます。サポーターの専門分野など時間割は当スペース内の掲示で確認できます。



泉ラーニング・スペース (目白)

目白は3つのエリアに分かれ、総座席数は52席です。**インタラクティブ機能内蔵プロジェクター (卓上投影用)**、**モニター付大型テーブル席**、**電子黒板**、**80型ロールスクリーン (携帯型)**を備え、**ノートパソコン**、**モバイルプリンター**、**可動式プロジェクター**も貸出します。**ラーニング・サポーター**は月～土、11:20～17:50の間、学修相談を受け付けます。相談内容は大学院進学のための研究計画書の書き方、勉強の進め方、レポートの書き方の順で多いですが、多岐に渡ります。

西生田は座席数14席、**インタラクティブ機能内蔵超短焦点プロジェクター**や**超短焦点用80型ロールスクリーン (携帯型)**、4階グループ研究室Bに**電子黒板**を備え、**ノートパソコン**も貸出します。**ラーニング・サポーター**は月～金、11:30～18:00の間、学修相談を受け付けます。相談内容は履修の相談がとて多く、続いて、教職についての相談、大学院進学についての順となっています。
(館員・学修支援部会事務局 中澤恵子)

編集後記 新図書館の建築が急ピッチで進んでいる。卒業する皆さんは、卒業後にカウンターで簡単な手続きをしていただければ、引き続き大学図書館を利用できる。ぜひ新しい図書館も訪れていただきたい。
平成29年度図書館だより編集委員：水嶋寿恵、吉原三紀子、浜口都紀 (浜口)